



第60号

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

発行日
平成27年6月1日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|----|-------------------------------|----|-----------------------|
| P2 | 平成 27 年度宮島地区パークボラン
ティアの会総会 | P7 | トンボ生息地整備作業
岩船岳清掃登山 |
| P3 | 平成26年度 PV 活動記録 | P8 | 公募観察会下見 |
| P4 | 新保護官・新入会員の紹介 | P9 | 入浜池補足調査② |
| P5 | 新入会員の紹介
速報：第1期会員に感謝状 | | 俳句『巣組み鳥』
編集後記 |
| P6 | 入浜池補足調査①
小なきり植物観察・海岸清掃 | | |



おしまめぐりしき おとぐいしき 御島巡式と御鳥喰式

古くから「安芸の宮島廻れば七里、浦は七浦、七恵比寿」と謡われ、
船に乗って七浦神社を巡拝することを『御島巡式』といわれている。

途中、巡拝船が養父崎神社の沖合に差し掛かると神官はコメの粉を練った
「糸団子」を筏に乗せ海に浮かべる。更に雅楽の「鳥向楽」が縦笛に
よって奏でられる。暫くすると神社の社から神鴉あがらすが団子に向かって飛んで
くる。そして団子をついばみ神社へ運ぶ。その仕種に巡拝者は一斉に拍
手で讃め称える。

この神事の由来は、この島に三女神が御鎮座する場所を捜し求めて
いた時、鳥が船を先導したという故事によるものである。

世界文化遺産「嚴島神社」に相応しい神秘的な年中行事である。

(文と写真 中道 勉)

平成 27 年度 宮島地区パークボランティアの会総会

PV の会平成 27 年度定期総会が 4 月 4 日(土)杉之浦市民センターに於いて開催された。

出席者:足立 岩崎 大西 小方ペア 小川 金山 川崎 河村 北野 黒木 五石 小林ペア 坂本 佐渡
佐藤(佐) 佐藤(庸) 渋谷 島 兎谷 中道 野呂田 平田(広) 平野 檜和田 弁田 松尾 松田
村上 山崎 山本(昌) 横路 吉崎 呼坂 六重部 猪谷 大林 前田 増田 山本(章)
(委任状提出者を除く)

環境省:武石自然保護官 大高下 AR

1. 開会 (司会 岩崎副会長)

開会前に全会員の集合写真を撮影し、定刻 10 時に開会。配布資料の確認のあと、新入会員から順に出席者全員が自己紹介を行った。

2. 開会あいさつ (司会 岩崎副会長)

- 環境省・武石自然保護官挨拶

今年度は宮島 PV 発足 15 周年になる。今までの PV のご協力に感謝し、ミヤジマトンボの調査などに引き続き協力をお願いしたい。

- 環境省・大高下 AR 挨拶

PV 発足以来早くも 15 年になる、成果はすぐにはでないが今後ともよろしく

- 村上会長挨拶

今年度から 7 名の新入会員を迎えることになった。今までに自然保護官は 10 人目、AR は 2 人目、公募観察の一般参加者延約 900 人になる。これからも背伸びせず、地道に安全第一で活動したい。また、コンプライアンス(法令順守)と健康にも留意して欲しい。

3. 総会の成立確認 (司会 岩崎副会長)

出席会員数 41 名、委任状提出者 12 名、合計 53 名で、会員総数 56 名の過半数あり、総会が成立したことを確認。



新入会員を迎えて

4. 議事 (議長 村上会長)

- (1) 審議

次の 4 議案につき会長・各部会長・会計から説明・報告がなされ、異議なく承認された。

- 平成 26 年度活動状況について
- 平成 26 年度決算(案)について
足立監査員から「適正」との監査報告
- 平成 27 年度活動計画(案)について
- 平成 27 年度予算(案)について

- (2) その他の審議事項

- 会長より「15 周年記念行事」として何らかの行事を行うことが提案され、詳細は幹事会で検討することが承認された。

- 廿日市環境フェスタで「シカのぬり絵コーナー」を設けることが提案され、幹事会で細部を詰めることになった。
- タンボポ調査の方法について説明があった。

5. 至近行事の説明 (小林部会長、佐藤(佐))

部会長代理、平田(広)部会長)

4~5 月の行事案内。

6. 総会終了

午後の行事の説明のあと、予定通り 12 時 30 分終了。

(文:川崎 昭壽、写真:中道 勉)

H26年度 PV活動記録 (平成26年4月～27年3月)

	開催日	行 事	場 所	参加会員	備 考
会合	4/5(土)	平成26年度定期総会	杉之浦市民センター	46人	
	12/6(土)	臨時総会・会員の集い	宮島市民センター	36	
観察部会	5/25(土)	公募観察会①	弥山登山道	19	公募参加者39名
	11/22(土)	公募観察会③	鷹ノ巣高砲台	19	公募参加者35名
	4/5(土)	自主観察会①	小なきり周辺	24	植物・生物調査
	5/17(土)	自主観察会②	弥山登山道	16	兼公募①下見
	7/24(土)	自主観察会③	鳥居周辺干潟	7	兼公募②下見
	9/18(木)	自主観察会④	佐伯運動公園	8	ハチクマの渡り観察
	11/15(火)	自主観察会⑤	鷹ノ巣高砲台	15	兼公募③下見
	H27/1/10(日)	自主観察会⑥	弥山新春登山	16	
	4/12(土)	自主観察会(OP)	江田島市	14	ゲンカイツツジ観察
	H27/1/31(土)	自主観察会(OP)	地御前	21	冬鳥観察
	4/5(土)	入浜池補足調査①	入浜池周辺	9	総会後
	5/31(土)	入浜池補足調査②	入浜池周辺	8	
	10/11(土)	入浜池補足観察④	入浜池周辺	8	
	6/14(土)	入浜池定点観察①	入浜池周辺	13	
環境整備部会	7/26(土)	入浜池定点観察②	入浜池周辺	18	
	9/13(土)	入浜池定点観察③	入浜池周辺	18	
	H27/2/14(土)	入浜池定点観察④	入浜池周辺	21	
	4/5(土)	宮島市街地周辺美化	小なきり浜	24	
	4/26(土)	高安ヶ原・青海苔清掃登山	多々良～大砂利	17	
	5/10(土)	鷹ノ巣高砲台跡整備・清掃	鷹ノ巣高砲台	19	
	6/14(土)	入浜池維持管理作業①	入浜池	13	
	7/11(金)	嚴島神社前海浜清掃	嚴島神社前	20	
	7/19(土)	包ヶ浦海岸清掃	包ヶ浦	20	作業終了後昼食会
	7/26(土)	入浜池維持管理作業②	入浜池	16	
その他	9/13(土)	入浜池維持管理作業③	入浜池	18	
	10/25(土)	紅葉谷公園歩道補修・清掃	紅葉谷公園	23	新会員研修6名
	11/1(土)	樹木名板維持管理(うぐいす道、もみじ歩道、あせび歩道)		7	新会員研修6名
	12/13(土)	弥山登山道補修・清掃(獅子岩駅～弥山～大聖院ルート)		12	新会員研修6名
	H27/2/14(土)	入浜池維持管理作業④	入浜池	21	
	H27/2/21(土)	コバシモチ樹木ネット保全・確認	室浜	15	広大植物実験所と連携
	6/1(日)	環境の日ひろしま大会	県庁前広場	2	パネル展示
	7/5(土)	環境省主催研修会	宮島市民センター	36	
	7/12~13	瀬戸内海環境保全協力	高松市	4	パネル展示
	10/18(土)	中四国地区PV活動交流会	佐木島	18	

注：行事名の付番の欠番は雨天等で中止した行事

— 榊さんの後任自然保護官 —

関 貴史さん プロフィール

出身地： 兵庫県神戸市

経歴： 大学時代は福岡で植物の研究をしていました。その後、レンジャーという仕事を知り、平成20年1月環境省入省。東北地方環境事務所（仙台市）→那覇自然環境事務所（那覇市）→神戸自然保護官事務所（神戸市）を経て平成27年4月1日より広島事務所。

趣味： 食べ歩き、温泉、睡眠、ときどき山登り etc.

ひとこと：

はじめまして、4月に赴任しました関と申します。前任地では六甲山や淡路島など、瀬戸内海国立公園（兵庫県地域）を担当しておりました。引き続き同じ国立公園の担当となりますが、広島県地域は前任地とは異なる魅力を感じています。特に宮島の古くから人の営みと自然が調和した風景には、神聖な島への畏敬の念を感じさせながらも、どこか温かみのある親しみ深い魅力を持っているように思います。これから、そういった中で積極的に活動されている宮島地区パークボランティアの皆さんと一緒に活動できることを楽しみにしていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



新入会員の紹介

下記について答えていただきました。

- ①現在住んでいる所、血液型
- ②出身地、今までに長く住んだ所
- ③PVに応募した動機
- ④他にボランティア活動していますか？
- ⑤趣味、特技など
- ⑥今までに登った一番高い山は？
- ⑦最近何か感動したことがありますか？
- ⑧最近憤慨していることがあれば
- ⑨好きな言葉
- ⑩その他自己PRなどなんでも

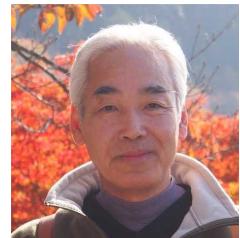
麻生 博史

広報部会

① 広島市東区牛田早

稻田 A型

② 大分県湯布院、広島市～兵庫県西宮（6年）～川崎市（6年）～広島



③ “宮島”と”ボラ

ンティア”の言葉に惹かれて、発足時に参加

広島を離れて退会し、この度再度参加

④ なし

⑤ フライフィッシング、ドライブで各地めぐり、囲碁、読書

⑥ 富士山

⑦ 4月16日桃花祭御神能観賞にて、翁三番三の舞に感動

⑧ なし（宇宙～地球に一瞬だけ生命を頂き活かされることに感謝）

⑨ 感謝、前向き

⑩ 前向きの原動力に”好奇心”を使っています

いたに

猪谷 彦太郎

環境整備部会

A型

① 広島市佐伯区屋代

② 北九州市～廿日市市～広島市

③ 宮島の魅力を伝えたい

④ 宮島弥山倶楽部

⑤ 登山、テニス

⑥ 北岳 3,193m



⑦ 最近、読んだ本：壼木蓬生著「国銅」

⑨ 「之を楽しむ者に如かず」

⑩ 奥深い宮島の歴史と自然を楽しみたいと思っています

大林 實

環境整備部会

① 広島市安芸区中野東

② 東広島市、名古屋市（10年）、高知県、徳島県、香川県、山口県

③ 社会貢献、自然保護、宮島を世界のパ

ークに

（5ページに続く）



- ④ 学区公衛協、青少年育成広島県民会議、下校児見守り、地域の清掃美化活動
- ⑤ 俳句、山、野鳥、音戸の舟唄保存会
- ⑥ 富士山
- ⑦ 天皇皇后両陛下のパラオ慰靈
- ⑧ 東京電力原発事故対応
- ⑨ 国や社会に要求することより自分が国に社会に何ができるか

前田 忠瑛 広報部会

- ① 廿日市市阿品台
B型
- ② 宮崎県～広島県
- ③ 自然に触れる活動をしながら、環境問題を理解し、将来の役に立てたい
- ④ 宮島弥山を守る会
- ⑤ 野山歩き
- ⑥ 赤岳
- ⑦ 再読『種の起原』
- ⑧ まだまだ進む緑の減少
- ⑨ 千里の道も一歩から
- ⑩ 小さな工夫と努力を続けたい



増田 武彦 観察部会

- ① 廿日市市阿品
A型
- ② 福岡県出身、高松市7年間
- ③ 71歳サラリーマン生活に区切りをつけたところで佐藤庸夫先輩と出会い宮島ボランティア活動を希望
- ④ 宮島弥山を守る会、阿品の森サポートクラブ
- ⑤ 登山、混声合唱、本屋さんが薦める文庫本を車のシートを倒して読む読書
- ⑦ 黒田投手、20億を蹴って古巣カープに戻った男気
- ⑧ いつも忘れ物をしている自分の脳味噌
- ⑨ 孫＆飲み友達
- ⑩ 頑張らないけど、あきらめない、不器用だけれど、たどり着く。



森 弘 環境整備部会

- ① 廿日市市福面
A型
- ② 兵庫県出身、広島県(32年)、愛知県(3年)、東京都(5年)
- ③ 定年退職し、何か社会的な活動をしようかと思って応募
- ④ 他のボランティア活動は無し
- ⑤ 家庭菜園、近隣の里山や平地歩き、昼からの酒(弱いのですが、好きです)
- ⑥ 大山
- ⑦ 特に思い当たるものなし
- ⑧ きな臭くなってきた世の中
- ⑨ 特に今思い浮かばない
- ⑩ この会で必要と思われる知識、技術はありませんが、楽しませて頂きます。

山本 章伸 観察部会

- ① 広島市佐伯区八幡、A型
- ② 廿日市市(生まれて～29歳まで)、名古屋市4年間
- ③ 宮島はいつも身近にあったけど、そんなに魅力を感じる存在ではなかった。しかし、宮島が廿日市に合併し、特にミヤジマトンボや海岸清掃活動を通じて、宮島の歴史、自然、文化の素晴らしさに気付いたことから、宮島に関わっていきたいと思いました。
- ④ 地域の清掃や自然観察会などを行なっています。
- ⑤ バイク、オーディオ、登山、サイクリング、ゴルフありすぎて困ります。
- ⑥ 大山
- ⑦ 孫たちの成長を見るたびに感動します。
- ⑧ いろいろな手続き(行政?)が難しく、高齢者にやさしくないと思います。
- ⑨ 思い通りにはならないが、どうにかなるものだ。
- ⑩ あらゆることにチャレンジし、わくわくし、ときめいていたいと思います。



一速報 当会は今年で発足15周年になりますが、第1期(平成12年4月)入会の会員の方々に環境省から感謝状が授与されます。当該会員の「ひとこと」は次号に掲載！！

入浜池補足調査①

日 時 4月4日（土）総会後

天 候 曇り

参加者 大西 小川 黒木 小林ペア
中道 松田 山崎 山本(昌) 六重部
大林 山本(章)

【植物】六重部 篤志

花の数も2月に比べると多くなってきました。ヤブツバキ、ヤマモモ、ヤマザクラ、クロキ、ヒサカキ、サルトリイバラ（未だ蕾）、ナガバタチツボスミレ、ヤブヘビイチゴが大満開、キュウリグサやタネツケバナ、ホトケノザなどは金網の中ですので鹿に食べられずに生きのびている。ザイフリボク、タイミンタチバナの花も咲いていた。

砂浜の方ではイワタイゲキが増えてきたようです。気になるのはヒトモトスキの株枯れが段々と広がっているような気がします。2月の時よりも枯れたのが多いようです。何が原因かはわかりません。

【水質】小川 加代

塩分濃度A地点、E地点が0.07%,中央0.05%、水が湧き出ているC地点0%，PHはD地点6.0、他は6.3~6.8、CODは平均数値で5.0mg/l、海水の塩分2.1%でいつもより低い。イノシシの足跡が多く見られた。

【昆虫】松田 賢

トンボは成虫のまま越冬するオツネントンボ、交尾しているものもいたのでもう繁殖時期に入っている。もう1種類は春のうちから羽化して夏頃には姿を消してしまうシオヤトンボ。この2種類だけ確認できた。



シオヤトンボ

その他は同じ成虫越冬のタイプのバッタの仲間でハネナガイシバッタ（湿った土を好む種類で池の周りでたくさんみられた。）

同じく成虫越冬の仲間で、ルリタテハ、

ヒメアカタテハ、ムラサキシジミ、クロコノマチョウ、キチョウなどが飛んでいた。

池の中ではモリアオガエルの仲間で水辺で卵をうむシュレーゲルアオガエル。又、メダカやチチブも確認された。水面ではアメンボウが活動してカナヘビやシマヘビもたくさん見られた。

【野鳥】大西 順子

ノビタキの渡り、コチドリが去年、繁殖したのが2羽帰ってきていた。夏鳥ですからやって来てすぐだろうと思います。もう帰っていなくてはいけない冬鳥アオジやツグミ、シロハラもたくさん見ることができた。冬鳥はまとめて一緒に帰るのではなく同じ方向だから群がっているように見える。冬鳥はケガなど特別な事情がないかぎり帰っていくそうです。ミサゴももう繁殖しているようです。

(文：小林 翁 写真：大西 順子)

小なきり植物観察・海岸清掃

日 時 4月4日（土）総会後

天 候 曇り

参加者 総会出席者のうち、入浜池調査に向かった会員を除き、大部分の会員が本行事に参加しました。



植物観察風景

●観察部会のメンバーは植物、魚、トンボ、鳥の専門家集団であるから、ついてゆくのが大変と耳にしていました。

本来、体を動かし汗水流す事に喜びを感じるタイプなので、環境整備部会所属と決めていたのですが、活動は全員一体化しているようです。取りあえず観察部会に名前を登録という次第であります。植物観察の方達は百種類以上の植物名のマップを手に縦横無尽に飛び回る、(7ページに続く)

噂通りの専門家達でした。

餓鬼の頃は家にオヤツという習慣がなかつたので、近所の屋敷か裏山に樅の木の木刀を持ち、叩いたり搔すったりでヤマモモ、甘柿、栗を捕獲したり、野イチゴ、グミ、菱の実を採集して、家族を喜ばせました。今は恵まれた時代になりました。

先輩メンバーが「6月、小なきり浜のハンゲショウ(半夏生)の群生が見事に姿を表わす」とわが子のことのように嬉しそうに話される姿をみて、自分もカメラを手に楽しみに待ちたいと思いました。

(文：増田 武彦)

●海岸清掃では従来通り缶、ビン、PETボトル、牡蠣殻パイプなどがあつという間に集められ、きれいな砂浜に戻りました。回収したゴミは約 50kg になりました。



集まったゴミ

トンボ生息地整備作業

日 時：4月 17 日（金）10:00～16:00

主 催：ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会
参加者：岩崎 黒木 五石 小林(勲) 佐藤(佐)

未原 中道 松尾 松田 大林 前田 増田 森
環境省(広島)：武石自然保護官 関自然保護官
大高下 AR

今回の作業は、生息地のうち特に対応が必要となつた1か所の汽水池の水路の復旧活動でした。これまで汽水池の水は干満の度に海へ順調に流れ、水質は新鮮に保たれていたのが、潮流等による土砂の堆積で、水路が浅く大きく蛇行てしまい、流れが悪くなっていました。それを、水路の蛇行はおおむね維持しながら、底を掘ってその土砂を両脇に積み、かさ上げを行いました。

協議会を構成する多くの方々と、先発・後

発に分かれて塩屋漁港から現地まで漁船を乗り継ぎ、若干曇りがちな天候にも助けられ、作業は順調に進みました。



作業風景

作業前に汽水池の水は淀んでいましたが、作業の半ばから順調に海に向かって流れ出し、力仕事も少し軽く感じられるような気がしました。

今後も潮の干満や海が荒れた際に土砂はまた堆積し、同じ作業を繰り返す可能性もあります。しかし、宮島の自然海岸にコンクリートの水路等を安易に設置するわけにはいかないようです。

本会としても、継続的に汗をかくことでミヤジマトンボの生息環境を守る必要があると感じました。

※今回の活動には中国新聞の記者の方が同行され、後日写真入りの記事が掲載されました。

(文：松尾 健司 写真 末原 義秋)

岩船岳清掃登山

日 時：4月 25 日（土）08:45～15:45

天 気：晴れ

参加者：岩崎 小川 北野 小林(勲) 小林(寛)

佐藤(佐) 佐藤(庸) 末原 兎谷 錦織

平田(攻) 横路 呼坂 猪谷 前田 増田 森

環境省：大高下 AR

岩船岳は宮島南部の秀峰ですが、廿日市、広島方面からは、前峠山、三ツ丸子山等の陰に隠れてほとんど見えず、また大元公園からでも往復7時間程度の遠方にあるためか、地元広島でさえ知らない人が少なくないようです。その岩船岳に、直下の自然海岸から登るまたとない機会、喜び勇んで参加しました。

(8ページに続く)



岩船岳到着

- 08:45** : 宮島口松大汽船桟橋より出港。
- 09:15** : あての木浦到着、行程と注意事項説明を聞いた後、準備体操を行いました。
- 09:35** : 点呼・登山開始。羊歯が深い所が若干あったが、迷いや危険を感じることは無く、諸所で観察タイムを取りながら進みました。あちこちでちょうど見ごろのコバノミツバツツジを見かけました。岩場で展望タイムを取り汗をぬぐいながら、若い緑の尾根や対岸の山並みを眺め楽しみました。
- 10:35** : 標高約 230m にある巖島聴測照射所跡に到着。次々に現れるコンクリート製の基礎や建物に驚きました。
- 11:32** : 御床山頂上到着 (標高約 364m)。御床浦からの登山道との合流点です。傾斜の緩やかな、しかし岩の多い山道でした。適度の密度の林を、岩を回りこみながら進む山道はとても心地良く、何時間でも歩き続けたい程でした。やがて木々の隙間に帰りに通るはずの尾根が見えてきて、岩船岳が間近であることを教えてくれます。頂上近い位置でも力エルの鳴き声が聞こえました。
- 12:08** : 岩船岳到着 (標高 466.6m)、腰を下ろす前に先ずコウヤマキを教えていただきました。岩場で昼食・休憩・集合写真撮影。

12:50 : 岩船岳出発。奇岩の間を縫って行く場所を過ぎると、熱心な観察が始まりました。

13:36 : 駒ヶ林などを遠望できました。岩船岳登山の楽しみのひとつです。

13:50 : 大川越え到着。JR 山陽本線の車窓や、経小屋山から見るきれいな尾根の輪

郭を思い浮かべながら歩きました。

15:17 : 三ツ丸子山と先峰山間の鞍部四差路着。多々良林道への下りでは、最近雨が多くたせいか水量が多い沢があり、屈み込んで水を掬う姿が見られました。

15:45 : 多々良林道途中の登山口 (標高約 100m) 到着、解散。

この度は宮島により親しむ素晴らしい機会を与えていただき感謝いたします。

(文:前田 忠瑛 写真:末原 義秋)

公募観察会下見

(大元公園～広大実験所～室浜砲台跡)

日 時:5月 2日(土)9:30～15:30

参加者:岩崎 小方(嗣) 川崎 小林(勳)

佐藤(佐) 末原 兎谷 野呂田 平田(攻)

村上 山崎 横路 呼坂 六重部 増田 森

9:40 大元公園休憩所出発、事前にお願いをしていましたリーダー達は本番の資料の為、樹木名などを入念にチェックしながら歩いています。この作業が本番の時には大いに役に立つでしょう。他の会員の方々は歩道の安全を確認しながら歩く。

このコースは樹木には名前がついているので同定することは容易です。あとはリーダー達の豊富な経験と知識で参加者を満足させてくれることでしょう。宮島以外ではほとんど見られないタイミンタチバナ、ナンゴクウラシマソウも花をよくつけていますが、メインのクロバイは満開を過ぎているようです。本番には終わっているかな…。

海岸付近ではよくみかけるアオスジアゲハが気持ちよさそうに飛んでいた。



キンモンガ

キンモンガ (昼行性の蛾) が黒色と淡黄色の鮮やかな色で葉の上に翅を広げて止まっている。

(9 ページに続く)

室浜海岸ではイワタイグキ(準絶滅危惧種)が満開でした。本番も楽しめるでしょう。帰路の途中に歩道の真ん中にマムシが鎮座していました。本番も要注意ですね。

(文と写真 小林 勇)

入浜池補足調査②

日 時 5月 23日(土)

天 候 曇り

参加者 大西 小川 小林ペア 穂谷 中道
松田 横路 六重部

【水質】小川 加代

B地点、杭はマイナス 1cm で池全体が水が少なく濁りがかったり、藻が浮いたりして汚れた感じがする。C O Dは全体的に水が少なく無理をして採水したので、数値は 10mg/lが多く出口のF地点は5でした。塩分濃度はA地点で 0.07%、B地点なぜか 0.15%、出口のF地点 0.09%。P Hは 5.7 ~6.8 で前回より全体的に低い。

【植物】六重部 篤志

ヒトモトスキが段々と枯れていっているのが気がかりです。又、ホウロクイチゴがイノシシの仕業だろうか根こそぎ掘られている。金網の中を覗いてみればナガバヤブマオの茎の上部が食い荒らされている。原因はフクラスズメという蛾の幼虫が大量に発生して食い漁ったのでしょうか。この蛾は刺激を受けると前半身を左右に振動させる習性がある。

【昆虫】松田 賢

今日はちょっと曇っているので、トンボもあまり活動をしていません。ホソミオツネントンボ、オツネントンボ、どちらも成虫で越冬します。アオモンイトトンボは成熟したものもいれば羽化直後のものなどこ



これからどんどん増えるでしょう。シオヤトンボは春に出てくるトンボで、4月にも飛

んでいた。今は成熟した個体が活発に活動している。サラサヤンマ、ギンヤンマの 6種類が確認できた。チョウはアオスジアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ、サツマシジミ、トラフシジミ、アカタテハなど。ハルゼミ、シュレーゲルアオガエルも鳴いていた。

【野鳥】大西 順子

夏鳥のホトトギスが盛んに鳴いていた。成鳥と幼鳥のアオサギ、カルガモ 2羽、コチドリ、トビ、コケラ、ヤマガラ、シジュウガラ、アオバト、ヒヨドリ、メジロなどいろんな種類が確認できた。ミサゴは繁殖期を過ぎたのでしょうか?オオルリもきれいな声で鳴っていました。セグロセキレイは親鳥が盛んに雛に餌を運んでいました。ハシブトカラスは雛が親にべったり寄り添っていたので巣立って間がないようです。以上のように野鳥たちも順調に子育てをしているようです。

(文と写真: 小林 勇)

『巣組み鳥』

- ・野ざらしの鹿のどくろや櫻芽吹く
- ・アオサ
・石蓆腐乱ミヤジマトンボの棲息池
- ・巣組み鳥鹿のおみどりの毛を銜え

黒木 隆信

◇ 編集後記 ◇

本会報の編集において最も頭を悩ますのが表紙の写真です。今号は第 29 号でも取り上げた「御鳥喰式」になりましたが、鴉が団子を銜える決定的瞬間を捉えた貴重な写真です。今後も皆様のご自慢の写真があれば、是非投稿をお願いします。

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局: 環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)
広島市中区八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階
TEL 082-223-7450 FAX 082-211-0455